



# 試合での緊張感、勝利したときの感動を いつまでも感じていたいから 健康である限り好きなテニスを続けたい

久保田 千恵子さん(ソフトテニスプレイヤー)

「心臓は強いほうだと思っ  
ていたのに、あんなに緊張し  
たのは初めてでした。優勝を  
決めたときの感動は一生忘れ  
ません」と話す北入曾在住の  
久保田さんは、8月に千葉市  
で開催された全日本レディー  
ス全国大会に埼玉県代表の一  
員として出場し、見事全国優  
勝を果たしました。

久保田さんがテニスを始め  
たのは中学校に入学してから  
高校では、東京都の代表校の  
選手として関東大会初出場で  
初優勝、全国大会準優勝とい  
う輝かしい戦績を持っていま  
す。高校入学時、コートに入れ  
ない1年生は高架下での壁打  
ちと筋肉トレーニングの毎日  
でした。ボール拾いをしながら  
監督がレギュラーに指導し  
ている声を聴いて、壁を相手  
に実行しました。その甲斐あ  
つて、2年生では1番手(エー  
ス)に。試合に出たら勝たな

くてはいけないと  
いうプレッシャー  
で、楽しさよりも  
責任感に押しつぶ  
されそうでした。  
でも、それにも増  
して勝利したとき  
の感動が大きかつ  
たから、厳しい練習  
に負けずに、テニス  
を続けられたと思  
います」と振り返ります。  
そんな久保田さんも、結婚  
して子どもが生まれてからの  
10年間は、テニスから遠ざか  
っていたそうです。コートに  
戻ったのは4年ほど前。週に  
1回3時間、60歳以上の方の  
集まるサークルのお手伝いを  
頼まれたのがきっかけです。  
その後、昔の経験もあるから  
と、市民大会に出場。その大  
会では全く勝てませんでした。  
た。そのことが悔しくて、もう  
一度真剣にテニスに打ち込ん



久保田さんと練習している中学生たち

でみようと思ったんです」と  
久保田さん。  
しかし、好きなことができ  
るのは家族の理解と協力があ  
つてこそ。応援してくれる家  
族のことを考え練習は、家事  
が終わってからの夜間などを  
利用し、短時間で集中して行っ  
ています。

最近では、テニス  
が好きで、強くなり  
たいと思っている市  
内の中学生に、自分  
の練習も兼ねて指導  
しています。「練習中  
は、子ども達の向上  
心を見ていると自分  
も頑張らなくてはと  
思えるし、うまいプ  
レーをしたときの笑顔などを  
見ると、元気をもらっていま  
す。子ども達には技術だけで  
なく、けがの怖さやマナー、テ  
ニスの楽しさ、そして何より  
学生時代に培った『決してあ  
きらめない心、何事にも一生  
懸命に頑張ろう』という気持  
ちを伝えていきたいです」と  
歯切れ良く話します。  
子ども達と一緒に、元気に  
コートを走り回る久保田さん  
テニスへの情熱がその姿をひ  
ときわ輝かせていました。

ソフトテニスの楽しさは、比較的簡単にラリーが続けられることです。  
ラケットで思い切りボールを打ったときの爽快感は格別です

